

目指す学校像	120余年の永い伝統に培われた真面目な校風を基調として、豊かな教養、確かな学力とモラル、マナーを身につけた国際人を養成する。そのため心身ともに健全な人間、自ら個性や可能性を発見し、自分で自分を育てる人間作りを目指す。
重点目標	1.よくわかる授業や工夫された指導方法で学力向上を図りつつ、主体的に学ぼうとする生徒を育てる。 2.進路指導の充実を図りながら、各自の志の実現に向けて、自らの道は自ら拓く、能動的な生徒を育てる。 3.部活動や学校行事などを通して、幅広い人間力を持った生徒を育てる全人教育を推進する。 4.真面目な校風を継承発展させるとともに、学校内外に向けてその周知をはかる。地域社会との連携もはかる。

コ ロ ナ 禍 達 成 度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化に兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係評価者	
教職員	32名
保護者	29名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	3年間の授業指導計画の中で、1、2年次においては教科書を中心とした基礎学力の養成を図り、3年次は大学入試に対応した応用力の育成に努めている。学力に応じたきめ細かい指導やAL、iPadを利用した授業等による授業改善をより一層展開する必要がある。	・学力の向上 ・学習意欲や進路意識の改善 ・学習習慣の定着 ・授業改善の取組	・コース別クラス編成により、習熟度別授業を行ってわかる授業を展開する。 ・HRでは英語リスニングや主要教科のHRテスト、授業中の確認テストを行う。 ・英語教育に力点を置き、英検対策ではiPadや機器を用いて指導を行う。 ・各種模試分析、Classiの活用による生活・学習習慣の見直し、弱点克服をはかる。 ・AL形式、iPad利用による授業改善を進める。	・外部模試における過年度及び他校比較 ・英語検定の合格状況 ・各種模試、まなびみらいPASS、Classi等による学年の状況の把握。 ・公開授業による評価	・予備校講師による模試分析を実施し、学力把握につとめて以後の教科指導の参考とした。 ・英検 1級1名、準1級33名、2級532名等の合格者を出した。 ・まなびみらいPASSやClassi、模試等に基づいた面談で、学習・生活習慣の見直しをはかった。 ・ICT機器を使用したAL形式授業等を一層充実させるとともに着任1、4年目対象の研究授業の制度化、全校的な授業研修週間導入など授業改善をすすめた。	A	・様々な大学入試改革を見すえて、授業改善に一層力を入れる必要がある。 ・教員の授業見学や校外研修、AL形式や全学年に導入が完了したiPadを利用した授業改善に一層取り組む。 ・自宅学習習慣を定着させるため、Classiをもとに生徒を把握し、面談の充実をはかる。 ・観点別評価方法の一層の充実を図る。
2	ほとんどの生徒が大学進学を目指している。生徒の進路実現のために、1年次より系統的な学習指導・進路指導を実践している。また、自学自習の精神を持たせ、家庭学習の習慣化を図っているが、必ずしも十分な時間が確保されているとは言えない生徒もいるので、指導を強化する必要がある。	進路実現に向けての取組	・大学説明会・出張講義・キャリアガイダンス・コース別指導等の豊富で系統的な進路指導により将来を見据えた進路目標を持たせる。 ・校内で全国レベルの模擬試験を行い、全国での本校生徒の実力を客観的に把握する。また、希望者は模試の外部受験も行い、共通テスト同日模試を2年次にも受験させる。 ・長期休業中の夏期・冬期・春期講習の他、難関大特講・共通テスト特講等の充実。 ・二者・三者面談を通して意識の向上を図る。 ・先輩の受験体験を後輩に伝える進路懇談会の実施。	・進路実績 ・模試結果 ・大学入学共通テスト対策模試の得点率 ・難関大受験への意識づけ	・現役合格率97.1%、東京工業大・大阪大・神戸大・山形大[医-医]・高知大[医-医]・お茶の水女子大学・電気通信大・東京学芸大・東京農工大・横浜国立大・埼玉大・東京都立大・埼玉県立大・防衛医科大学校等 国公立大79名合格(現役70名)。 ・保護者対象河合塾進路講演会(高3春、高1・2秋)、医学科ガイダンス、東大ガイダンス、16大学校内大学説明会、出張講義(東京大、東北大、中央大)、キャリア教育(高1,2)、理数選抜コース：京都大高大連携プログラム、留学生プログラム、国内英語宿舎 ・講習(夏期・冬期・春期)の実施。難関大特講と共通テスト特講の実施と消消指導と面接指導を徹底し、受験にむけてのサポートを充実させた。	A	・現役合格率95%超を引続き維持する。 ・現役合格のための進路指導を1年次から系統的に行い、「探究」心を養い、最後までやり抜く意識を持たせる。 ・ICT教育を推進し、「知識・技能」の徹底した修得と思考力・判断力の養成に向け、研究授業等を通して新入試に対応できる生徒を育成する。 ・基礎学力定着のために、計画的に模試を受験し、iPad利用により模試結果で明らかになる教科ごとの不得意分野を指摘できる等、二者面談の充実を図る。 ・保護者への適切な情報提供を強化する。
3	楽しく充実した学校生活を送るために、部活動や学校行事を全員参加とし、コロナ禍の中で最大限一人ひとりが主体的に取り組むことができる環境を整える。	部活動・学校行事を通し個々の生徒が学校生活での目標をかかげることができたか。	・居場所づくりのため、個々の生徒に目的意識を持たせて、部活動・行事に取り組みさせる。 ・部活動においては、はっきりした目標設定を行い、それに向かって充実した活動を行う。 ・数少ないか諸行事を通して友人や教員との親睦を深め、楽しい学校生活作りに役立たせる。	・部活動の目標達成度 ・各行事の満足度(生徒アンケート) ・卒業生の3年間での出席率	・全国大会出場クラブ 運動部6(ソフトボール・陸上・ソフトテニス・水泳・剣道・新体操) 文化部8(箏曲・マーチングバンド・百人一首・文芸・音楽・バトン・囲碁・新聞) ・卒業生の3年間での無欠席率は42%だった。	B	・コロナ禍の中で最大限、部活動と勉強を両立して、充実した高校生活を送らせ、人間形成をはかる。 ・部活動ごとに目標を設定し到達度をみる。 ・諸行事は、条件が許す範囲で、充実した内容にしていく。
	ボランティア活動を推進させる。	ボランティア活動を通した意識の改革。	・各種チャリティバザー、河川や近隣での清掃等地域貢献活動、各部活動による老人ホームや各種施設訪問等は新型コロナウイルス対策のため中止した。	・活動実績	・文化祭時のチャリティバザー。国際文化部等による市内英語案内。吹奏楽・バンド・音楽部チャリティコンサート。 ・埼玉県警防犯プロジェクト等全て中止した。 ・進路決定者による清掃活動、特養訪問活動も中止	C	・昨年は中止したが、今後も息の長い、組織的なボランティア活動を生徒が一層自主的に展開する姿勢づくりを模索する。
4	伝統に培われた高校生らしさや真面目な校風を継承発展させ、次代を担う人材の育成をはかるとともに、これらの校風を広く世間に周知する。時代に即した改善も必要である。	・開かれた学校づくりの推進 ・保護者や生徒の理解 ・地域からの理解、地域への貢献	・学校HPを活用した情報公開 ・中学生・保護者向け見学会や説明会でのPR活動。 ・できる限り、地域社会・中学生・保護者に情報提供・教員による中学校訪問 ・地域への貢献。保護者への情報提供。	・HPの活発な更新 ・見学会・説明会における参加人数 ・保護者への各種情報提供状況	・HPについて、閲覧者がより本校の理解が進むように、HPの改善に努めた。 ・生徒の中学校訪問は本校の真面目さを伝えられた。 ・本校教員による地域の中学校への出張講義等を通し、高校での学びの魅力を伝えた。 ・見学会参加者数が、コロナ禍の中でも若干増加した。	B	・HPや学校見学会等、あらゆる機会を通じて、幅広い広報活動に努める。 ・グラデュエーション、カリキュラム、アドミッションの3ポリシーの広報。 ・地域貢献活動を通じ一層理解を得る。 ・保護者への情報提供を一層進める。

学校関係者からの意見・要望・評価等 ※は保護者の評価 ・は生徒の評価
※先生方は熱心に授業を行っている子どもから聞いている(97%) ※授業の教え方や説明は分かりやすいと子どもから聞いている(76%) ※授業内容や進度は自分に合っていると子どもから聞いている(97%) ・プロジェクトと黒板の併用でより詳しく先生の説明が聞けるのが良い。 ・アプリを利用し生徒の解法をみんなで共有する機会があるため、様々な解答のパターンを学ぶことができることがとても意義のある活動だ。 ・コロナで減った理科実験を増やしてほしい。
※進路に関して、保護者への連絡や適切な情報提供を行っている(75%) ※生徒の進路にあったコース、科目が設定されている(97%) ・進路指導部からiPadに毎回大学のオープンキャンパスの情報が入ってきたり、模試のデータやおすすめの勉強法が教室掲示されたりして参考になる。 ・先輩との進路懇談会では、同じ時に何をし、どんな気持ちだったかが分かることで不安も解消され、やる気が出た。 ・定期的に二者面談ができるのは良いが、もう少し回数を増やしてほしい。 ・大学や職業について調べて発表することは自分の進路を見つめ直すきっかけとなり、クラスの子の発表で視野が広がった。 ・社会科の講習を、冬期や春期もやってほしい。
※行事(文化祭、体育祭等)が活発である(64%) ※部活動が活発である(93%) ※コロナの時代に合った行事、授業をして欲しい。中止ではなくやれることを考えてほしい。 ・芸術鑑賞会で、生まれて初めてバレエを見た。ダンサーを間近で見て美しさに感動した。しかし、コロナで行事がほとんどないのが残念。 ・このような状況だからこそやる学校行事は自分の中で強く生き続け、20年後、30年後に思い出として語れると思う。 ・部活は、様々な意見の衝突も含め、今後生きていく上で役立つ力を身につけられているように思う。
※先生は、生徒を理解し生徒にあった指導をしている(93%) ※生徒はマナー、服装、あいさつなどがきちんとできている(97%) ※入学させてよかったと思う(89%) ・中3の時、「真面目がかっこいい」なんて綺麗ごとと思ったこともあったが、本当に真面目で、みんな互いの努力を認め尊重する姿に驚いた。